

東花畑・東若久校区
「日常生活や生活支援等に関する意識調査」
中間報告書

平成 25 年 8 月

社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会

目 次

I. 調査概要	1
II. 調査結果の総括	3
III. 調査結果	6
1. 外出の頻度	6
2. 人と話す機会	7
3. 福祉や健康に関する情報源	8
4. 地域住民による安否確認や見守り活動について	9
5. 日常生活の中で不便と感じていること	12
6. 地域住民の支援・サポートしてくれるサービスの利用意向	13
7. その他、生活で困っていること、知りたいこと（自由意見）	14

I. 調査概要

1. 調査目的

東花畑・東若久校区で生活する、支援が必要な高齢者等の日常生活における状況や困りごとを把握し、今後の校区における地域福祉活動の取り組みを検討する際の参考にするとともに、高齢者・障がい者等に対する支援・サービスの向上・推進に資することを目的とする。

2. 調査対象

福岡市南区東花畑校区、東若久校区に居住する高齢者（65 歳以上）および障がい者のうち災害時要援護者台帳に登録された者で地域への情報提供に同意された方（合計 221 人）

うち 回答数 合計 198 人（回収率 89.6%）

内訳） 東花畑校区 対象者 118 人 回答数 104 人（回収率 88.1%）

東若久校区 対象者 103 人 回答数 94 人（ 〃 91.3%）

3. 調査方法

平成 24 年度の災害時要援護者台帳調査に合わせ、民生委員の訪問による聞き取り

4. 調査時期

平成 24 年 7 月～9 月

※本調査は、福岡市の「地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業」と「南区地域福祉ネットワークづくりモデル事業」の両モデル事業の取り組みとして、福岡市社会福祉協議会、南区役所、南区社会福祉協議会の共同で実施した調査であり、モデル校区における推進主体である東花畑校区地域福祉“5 愛”推進会、東若久校区ふれあいネットワーク活動運営協議会の協力、および両校区の民生委員児童委員の協力により実施したもの。

5. 標本特性

上段：構成比（%） 下段：件数	サ ン プ ル 数	校 区		性 別			年 齢								
		東 花 畑 校 区	東 若 久 校 区	男	女	未 記 入	64 歳 以 下	65 ― 69 歳	70 ― 74 歳	75 ― 79 歳	80 ― 84 歳	85 ― 89 歳	90 歳 以 上	未 記 入	平 均 （ 歳 ）
全 体	100.0 198	52.5 104	47.5 94	30.3 60	69.2 137	0.5 1	19.2 38	2.0 4	3.5 7	12.6 25	24.2 48	22.2 44	10.6 21	5.6 11	75.79

要介護認定等					介護保険サービス利用						世帯構成					
要 介 護	要 支 援	な し	不 明	未 記 入	通 所 （ デイ サー ビス 等 ）	訪 問 介 護 （ ヘル パー 等 ）	そ の 他	利 用 な し	不 明	未 記 入	一 人 暮 ら し	高 齢 者 夫 婦 の み	65 歳 未 満 の 人 と 同 居	そ の 他	不 明	未 記 入
19.7 39	19.2 38	31.8 63	7.6 15	21.7 43	19.2 38	28.8 57	6.6 13	23.7 47	2.5 5	34.3 68	51.5 102	19.7 39	18.7 37	4.5 9	－ －	5.6 11

6. 調査結果利用上の注意

- ① 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数（標本数）を100%としている。
なお、回答率（%）は小数点以下第2位を四捨五入しているため、数表、図表に示す回答率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ② 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の集計については、項目別に、基数（標本数）に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。従って、数表、図表に示す各項目の回答率の合計は100%を超える場合がある。
- ③ 数表、図表、文中に示すNは標本全数、nは限定された回答者の数（その質問を回答しなくてよい人を除いた数）であり、回答率算出上の基数（標本数）である。
- ④ 数表、図表中の「－」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- ⑤ 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合がある。
- ⑥ 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。
- ⑦ 2つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の基数（標本数）の合計をもとに算出しているため、選択肢個々の回答比率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。
- ⑧ サンプル数が少ないものについては、分析に含めていない場合がある。

Ⅱ．調査結果の総括

1. 外出の頻度

- 介護予防における閉じこもりの目安となる「週 1 回未満の外出」を基準に傾向をみると、全体では閉じこもりのリスクは 2 割強となる。
- 年代別に閉じこもりのリスクをみると、65 歳未満の 1 割弱に対し、65 歳以上は 2 割弱と差があり、85 歳以上では 35.4%のリスクとなる。
- 世帯構成別では、「週 1 回以上外出する人」を基準に傾向をみると、「その他」をのぞきいずれも 8 割前後と大差はないが、「週 1 回以上外出する人」の中の「ほぼ毎日」「週 2～4 回」「週 1 回」の構成比をみると、外出の頻度は、65 歳未満の人と同居世帯、高齢者夫婦のみ世帯、一人暮らし世帯の順で高く、閉じこもりのリスクは、その逆となる。

2. 人と話す機会

- 認知症にならない生活習慣の代表格である話し相手がいることに類する「週 1 回以上人と話す機会がある人」の割合は、全体で約 9 割、いずれの年代、いずれの世帯構成でも、8 割以上となっている。
- 「ほぼ毎日人と話す機会がある人」の割合は、年代別では、65 歳未満の約 8 割に対し、65 歳以上は 5 割前後と大きな差があり、世帯構成別では、一人暮らし世帯が 35.3%、高齢者夫婦のみ世帯が 64.1%、65 歳未満の人との同居世帯は 83.8%と、世帯構成による特質が際立っている。

3. 福祉や健康に関する情報源

- 全体では、「テレビ」が 67.6%、「市政だより」が 61.6%と突出している。
- 情報源としての「町内の回覧」は、65 歳以上（特に 75 歳以上）の年代と一人暮らし世帯での有用性が高い。
- 情報源としての「校区内広報誌」・「いきいきセンター」は、65 歳未満の年代以外と 65 歳未満の人との同居世帯以外での有用性が高い。
- 情報源としての「ご近所の人」は、65 歳～84 歳の年代と一人暮らし世帯・高齢者夫婦のみ世帯での有用性が高い。
- 情報源としての「行政機関」は、年代が低いほど有用性が高く（年代が高くなるほど情報が届きにくく）、65 歳未満の人との同居世帯、高齢者夫婦のみ世帯、一人暮らし世帯の順で有用性が高い。

4. 地域住民による安否確認や見守り活動

(1) 安否確認や見守りを受けたいと思うか

- 全体では、受けたいと思う人が 40.9%、どちらともいえない人が 36.4%と拮抗しており、受けたくない人は約 2 割となっている。
- 65 歳未満の年代では、どちらともいえない人が 52.6%であるのに対して、受けたい人が 21.1%、65 歳未満の人との同居世帯では、どちらともいえない人が 40.5%であるのに対して、受けたい人は 32.4%と、他の年代、他の世帯と構成順位が逆転する。
- サービスを利用している人の 52.6%が「受け入れたい」と答え、15.4%が「受けたくない」としている。サービスを利用していない人では、受けたい人は 30.8%に留まり、受けたくない人と拮抗し、44.2%が「どちらともいえない」と答えている。

(2) 普段、地域の人が安否確認等のため自宅を訪問することについてどう思うか

- 全体では、「訪問してもよい（訪問してほしい）」が約 5 割と最も多く、次いで「災害時や緊急時のみ訪問してほしい」（21.2%）、「訪問しなくてよい（訪問してほしくない）」（14.6%）の順となっている。
- 65 歳未満の年代では、「災害時や緊急時のみ訪問してほしい」が 34.2%、「訪問してもよい（訪問してほしい）」が 28.9%、「訪問しなくてよい（訪問してほしくない）」が 26.3%と、特徴的な傾向を示している。
- 「訪問してもよい（訪問してほしい）」と答えた人の割合が、年代別では、75～84 歳が 65.8%、世帯構成別では、一人暮らし世帯が 61.8%、サービス利用別では、利用している人が 64.1%と際立って高い。

※支援を受ける側には、支援者を受け入れる力（『受援力』）が必要であり、平常時より『受援力』を高めることが、災害時の支援にもつながると指摘されている。また、自ら「助けて」と支援を求められない人がいることも『受援力』の問題として指摘されている。（１）・（２）の設問において、災害時要援護者の中に、「日常的な安否確認や見守りを受けたくない」、「訪問しなくてよい（訪問してほしくない）」、「災害時や緊急時のみ訪問してほしい」と回答している人が一定数いることは、『受援力』に係る取組みの必要性を象徴的に裏付けるものとなっている。

(3) 地域の人が自宅を訪問した際にしてほしいと思うこと

- 全体では、「安否確認のみの訪問でよい」が 48.7%と最も多いが、「話し相手になってほしい」（27.8%）、「福祉サービス・健康等の情報を提供してほしい」（26.1%）、「困ったこと等の相談を聴いてほしい」（18.3%）と、安否確認に留まらない「見守り活動」の機能（※註）に係るニーズも一定数ある。
- 「話し相手になってほしい」人は、85 歳以上の年代では 36.1%、サービスを利用している人では 34.0%と、他に比して高くなっている。

（※註）いわゆる「見守り活動」には、次の 5 つの機能があるという整理が一般的である。①早期発見（安否確認、変化の察知）、②早期対処（必要なところへの連絡）、③犯罪被害等を予防する危機管理、④生活に必要な情報提供や助言を行う情報支援、⑤孤独感を解消したり安心感を与える不安解消

5. 日常生活の中で不便と感じていること

- 全体では、2割程度の割合で、「草取り・庭木の剪定」、「少し遠くまでの外出」といった生活支援ニーズがあり、1割程度の割合で、「電球のとりかえ」、「布団干し」、「家屋の修理」、「近隣への外出」、「ゴミ出し」、「買い物」といった生活支援ニーズがあり、5%程度の割合で、「掃除・洗濯」、「衣替えや模様替えの作業」、「炊事」といった生活支援ニーズがある。
- 年代別では、加齢に伴い生活支援ニーズが全般的に高くなる傾向を示しているが、特に85歳以上の世代では、「少し遠くまでの外出」、「近隣への外出」、「買い物」といった外出支援に関するニーズと、「掃除・洗濯」、「炊事」といった家事援助に関するニーズが、他の世代に比して高い。
- 世帯構成別では、一人暮らし世帯では、「電球のとりかえ」、「布団干し」、「ゴミ出し」、「買い物」といった生活支援ニーズが、他の世帯構成に比して高い。

6. 地域住民が支援・サポートしてくれるサービスの利用意向

- 全体では、「内容によっては利用したい」（37.9%）と「利用したい」（16.2%）を加えると、利用したい人の割合は54.1%となり、「あまり利用したくない」が24.2%となっている。未記入も21.7%ある。
- 年代別では、「利用したい」と答えた人の割合が、65歳未満の10.5%に対して、85歳以上は20.0%と、大きな隔たりがある。
- 「利用したい」と「内容によっては利用したい」を加えた利用したい人の割合は、一人暮らし世帯が65.7%（「利用したい」人19.6%＋「内容によっては利用したい」46.1%）と最も高い。

Ⅲ. 調査結果

1. 外出の頻度

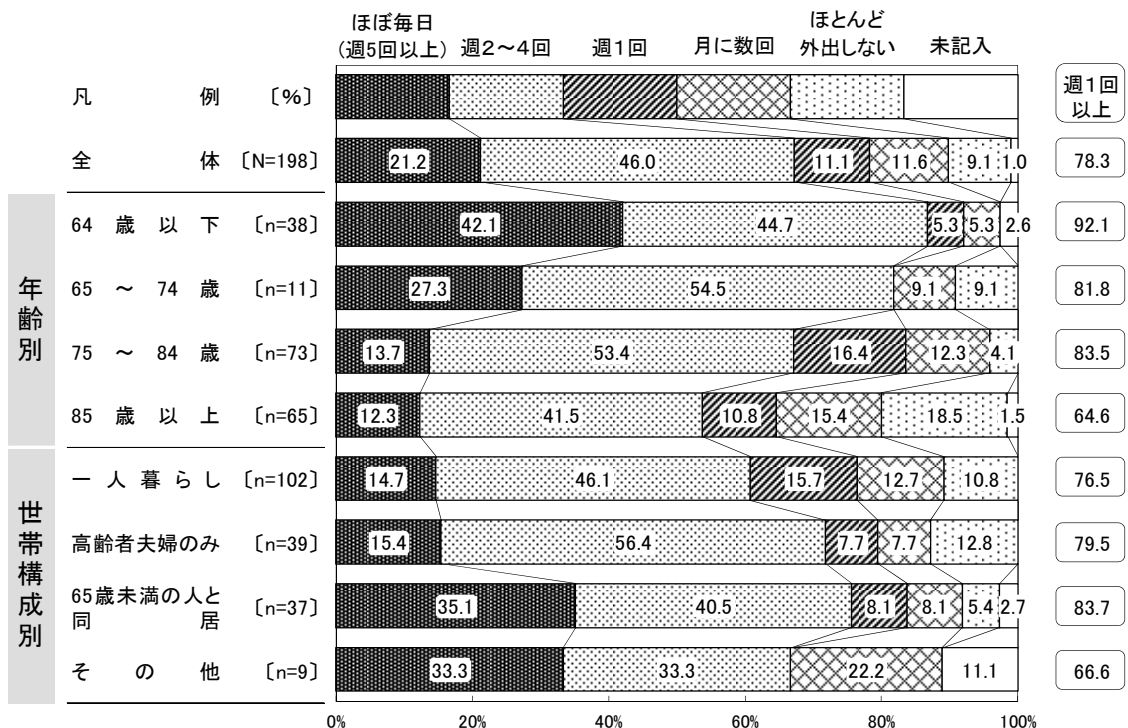
【1】 普段、どれくらいの頻度で外出しますか。

- 全体では「週2～4回」と答えた人が46.0%で最も多く、次いで「ほぼ毎日（週5回以上）」（21.2%）の順で、「ほぼ毎日（週5回以上）」から「週1回」を合わせた『週1回以上』外出する人の割合は78.3%となっている。なお、「ほとんど外出しない」と答えた人は9.1%となっている。
- 年齢別にみると、いずれの年代も「週2～4回」と答えた人が4～5割を占めて最も多いものの、『週1回以上』外出する人の割合は85歳以上になると減少する傾向がみられる。また、85歳以上は「ほとんど外出しない」（18.5%）の割合が他の年代よりも抜き出ている。
- 世帯構成別にみると、いずれも「週2～4回」と答えた人が多く、『週1回以上』外出する人の割合も7割以上となっているが、「ほとんど外出しない」の割合をみると、65歳未満の人と同居世帯は5.4%であるのに対して、一人暮らしは10.8%、高齢者夫婦のみ世帯は12.8%と、いずれも1割を超えている。

（65～74歳はサンプル数が少ないため、ここでは参考として扱う。以下同様）

※『週1回以上』＝「ほぼ毎日（週5回以上）」＋「週2～4回」＋「週1回」

◆外出の頻度◆



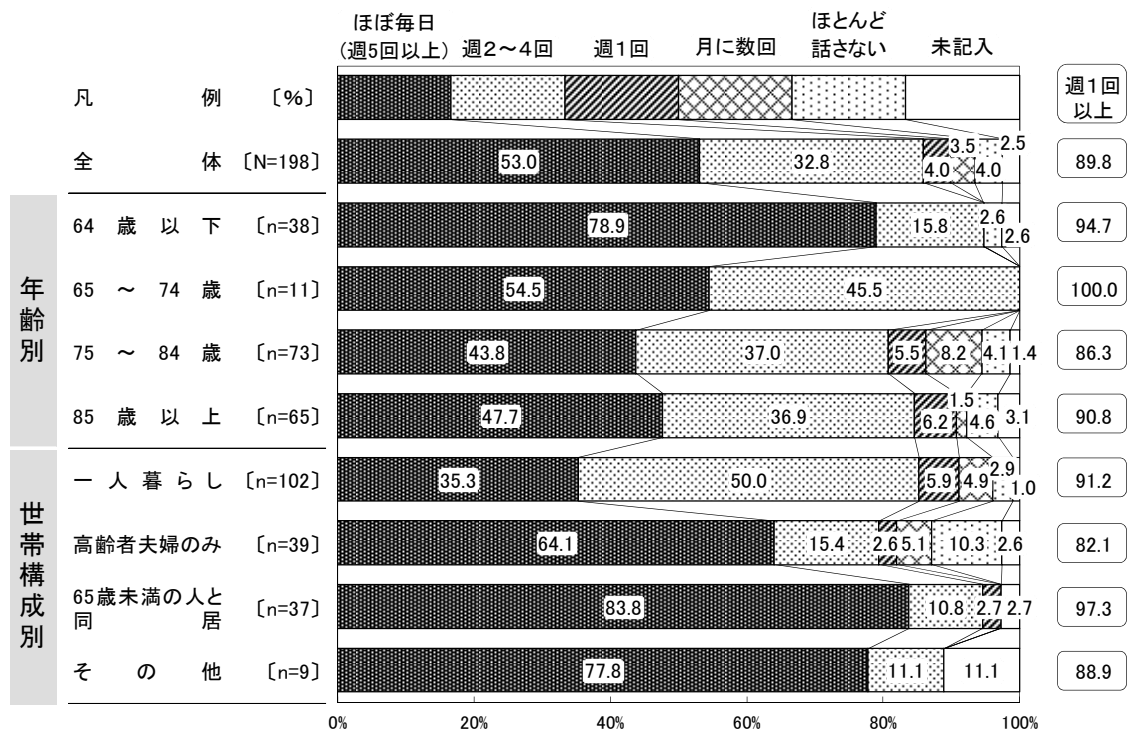
2. 人と話す機会

【2】普段、どれくらい人と話す機会がありますか。

- 全体では「ほぼ毎日（週5回以上）」と答えた人が53.0%で最も多く、次いで「週2～4回」（32.8%）の順で、「ほぼ毎日（週5回以上）」から「週1回」を合わせた『週1回以上』話す人の割合は89.8%となっている。なお、「ほとんど話さない」と答えた方は4.0%となっている。
- 年齢別にみると、いずれの年代も「ほぼ毎日（週5回以上）」と答えた人が最も多く、『週1回以上』話す人の割合はいずれの年代も8割以上みられ、「ほとんど話さない」人はわずかとなっている。
- 世帯構成別にみると、一人暮らし世帯は「週2～4回」（50.0%）が最も多く、高齢者夫婦のみ世帯、65歳未満の人と同居世帯は「ほぼ毎日（週5回以上）」と答えた人が最も多い。『週1回以上』話す人の割合はいずれも8割以上みられるが、「ほとんど話さない」の割合をみると、高齢者夫婦のみ世帯は10.3%と、他の世帯よりも上回っている。

※『週1回以上』＝「ほぼ毎日（週5回以上）」＋「週2～4回」＋「週1回」

◆人と話す機会◆

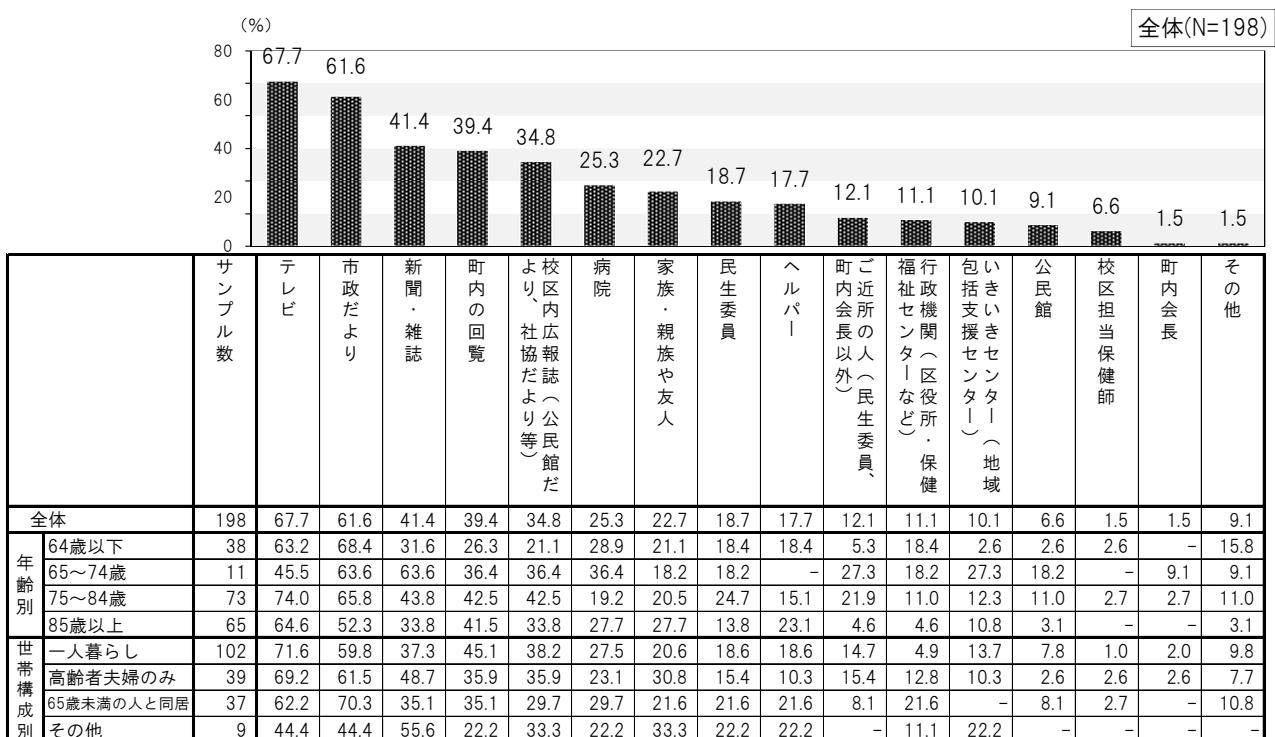


3. 福祉や健康に関する情報源

【3】普段、福祉や健康に関する情報をどのようなところから得ていますか。※複数回答可

- 全体では「テレビ」（67.7%）が最も多く、次いで「市政だより」（61.6%）の順で、この2項目は他に比べて抜き出ている。その他は割合が多い順に「新聞・雑誌」（41.4%）、「町内の回覧」（39.4%）、「校区内広報誌（公民館だより、社協だより等）」（34.8%）などとなっている。
- 年齢別にみると、いずれの年代も「テレビ」、「市政だより」の2項目が抜き出ている傾向は同じであるものの、75～84歳は「民生委員」（24.7%）が他の年代よりも上回っている。
- 世帯構成別にみると、いずれも「テレビ」、「市政だより」の2項目が抜き出ている傾向は同じであるものの、高齢者夫婦のみ世帯は「新聞・雑誌」（48.7%）、「家族・親戚や友人」（30.8%）が他の世帯よりも上回っている。

◆福祉や健康に関する情報源◆



4. 地域住民による安否確認や見守り活動について

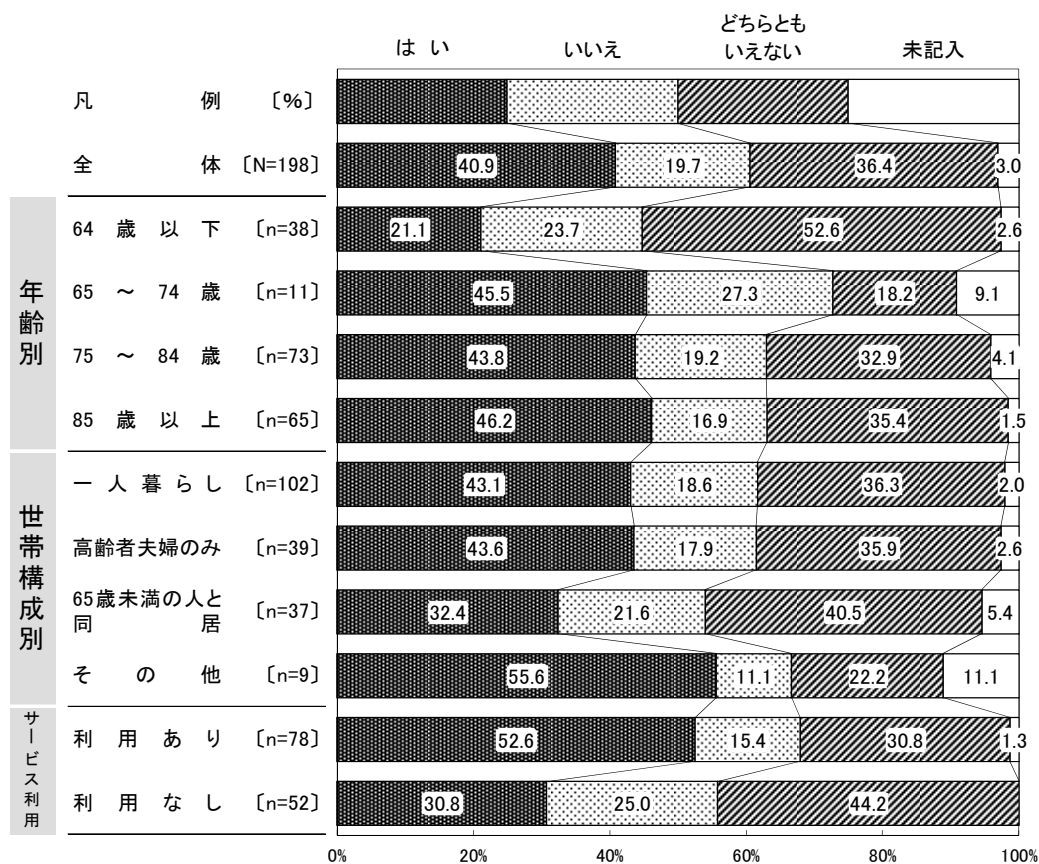
(1) 安否確認や見守りを受けたいと思うか

【4】地域住民による安否確認や見守り活動について。

①あなた自身は、日常的な安否確認や見守りを受けたいと思いますか。

- 全体では「はい」と答えた人が40.9%で、「いいえ」（19.7%）よりも上回っている。なお、「どちらともいえない」は36.4%となっている。
- 年齢別にみると、64歳以下を除いて「はい」と答えた人の方が4割以上を占め、「いいえ」よりも上回っている。なお、64歳以下は「どちらともいえない」（52.6%）が半数を占めている。
- 世帯構成別にみると、一人暮らし、高齢者夫婦のみ世帯は「はい」と答えた人の方が4割以上を占め、「いいえ」よりも上回っている。一方、65歳未満の人と同居世帯は「どちらともいえない」（40.5%）の方が4割を占め、「はい」（32.4%）よりも上回っている。
- サービス利用別にみると、利用ありは「はい」（52.6%）が半数を超えている。一方、利用なしは「どちらともいえない」（44.2%）の方が4割以上を占め、「はい」（30.8%）よりも上回っている。

◆日常的な安否確認の希望◆



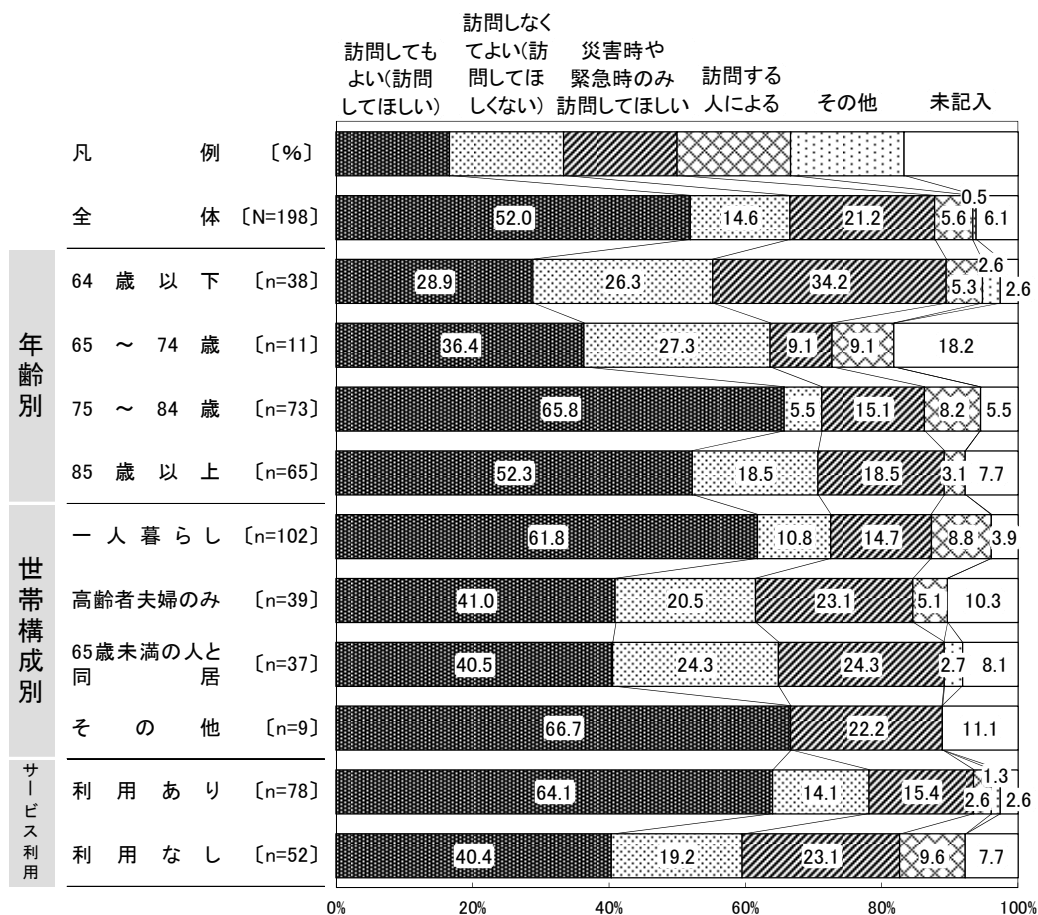
(2) 安否確認等のために自宅を訪問することをどう思うか

【4】地域住民による安否確認や見守り活動について。

②普段、地域住民の方が安否確認等のために自宅を訪問することについてどう思いますか。

- 「訪問してもよい（訪問してほしい）」と答えた人が52.0%で半数を占めている。次いで多いのは「災害時や緊急時のみ訪問してほしい」（21.2%）の順となっている。
- 年齢別にみると、75歳以上はいずれも「訪問してもよい（訪問してほしい）」が半数を超えて最も多い。一方、64歳以下は「災害時や緊急時のみ訪問してほしい」（34.2%）の方が多くなっている。
- 世帯構成別にみると、いずれも「訪問してもよい（訪問してほしい）」が最も多く、特に一人暮らしは61.8%と、他の世帯よりも上回っている。
- サービス利用別にみると、いずれも「訪問してもよい（訪問してほしい）」が最も多いものの、利用ありは64.1%と、利用なし（40.4%）よりも上回っている。

◆安否確認の訪問に関する考え◆



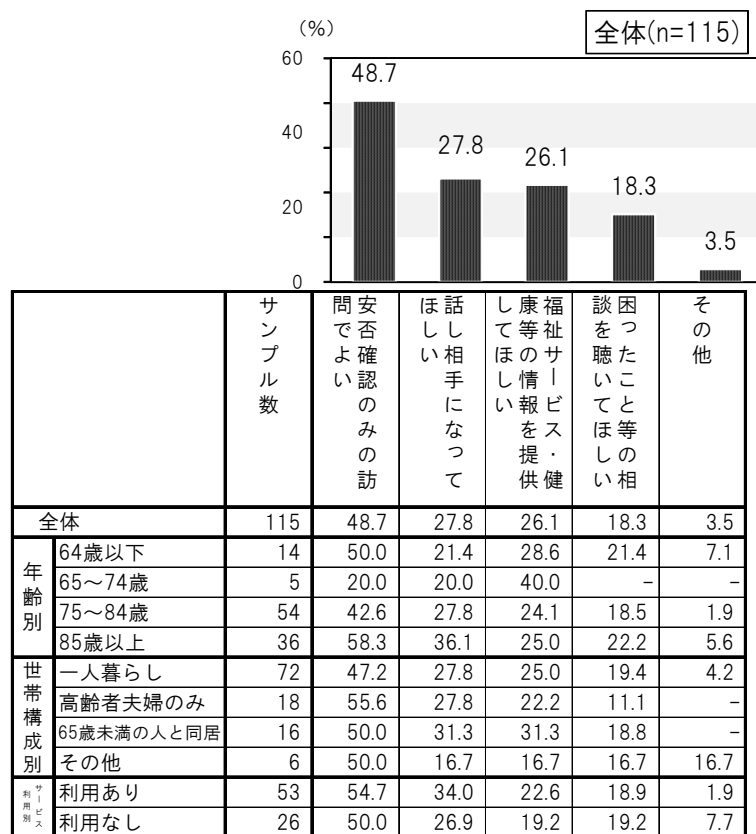
(3)地域住民が自宅を訪問した際、してほしいこと

【4】地域住民による安否確認や見守り活動について。

③地域住民の方が自宅を訪問した際、してほしいと思うものがあれば○をつけてください。※複数回答可

- 「訪問してもよい（訪問してほしい）」と答えた人に、してほしいことを聞いたところ、全体では「安否確認のみの訪問でよい」（48.7%）が最も多く、次いで「話し相手になってほしい」（27.8%）、「福祉サービス・健康等の情報を提供してほしい」（26.1%）、「困ったこと等の相談を聴いてほしい」（18.3%）の順となっている。
- 年齢別にみると、64歳以下、75歳以上は「安否確認のみの訪問でよい」が最も多くなっている。
- 世帯構成別にみると、いずれも「安否確認のみの訪問でよい」が最も多くなっており、特に傾向に違いはみられない。
- サービス利用別にみると、いずれも「安否確認のみの訪問でよい」が最も多くなっており、特に傾向に違いはみられない。

◆地域住民が自宅を訪問した際、してほしいこと◆

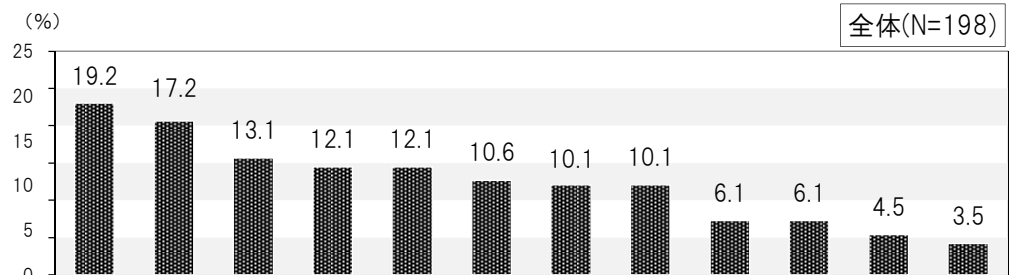


5. 日常生活の中で不便と感じていること

【5】日常生活の中で自分や家族だけでするのに困る（困ったことがある）ことや、少し不便だと感じるものがあれば○をつけてください。※複数回答可

- 全体では「草取り、庭木の剪定」(19.2%)が最も多く、次いで「少し遠くまでの外出」(17.2%)、「電球のとりかえ」(13.1%)、「布団干し」、「家屋の修理」(いずれも12.1%)などの順となっている。
- 年齢別にみると、75～84歳は「草取り、庭木の剪定」(23.3%)が最も多くなっているものの、85歳以上は「少し遠くまでの外出」(29.2%)の方が多く、他の年代よりも上回っている。なお、64歳以下は「草取り、庭木の剪定」、「家屋の修理」が13.2%で最も多くなっている。
- 世帯構成別にみると、一人暮らしは「布団干し」、「電球のとりかえ」、「草取り、庭木の剪定」、「少し遠くまでの外出」(いずれも20.6%)が最も多く、特に「布団干し」、「電球の取り換え」は他の世帯よりも上回っている。

◆日常生活の中で不便と感じていること◆



	サンプル数	草取り、 庭木の剪定	少し 遠くま での外 出	電 球の とり かえ	布 団干 し	家 屋の 修理	近 所へ の外 出	ゴ ミ出 し	買 い物	掃 除、 洗濯	作 業替 えや 模様 替えの	炊 事	そ の他
全体	198	19.2	17.2	13.1	12.1	12.1	10.6	10.1	10.1	6.1	6.1	4.5	3.5
年齢別													
64歳以下	38	13.2	2.6	7.9	2.6	13.2	7.9	5.3	5.3	5.3	-	5.3	7.9
65～74歳	11	9.1	9.1	18.2	9.1	-	9.1	-	9.1	-	9.1	-	-
75～84歳	73	23.3	13.7	13.7	13.7	13.7	9.6	11.0	9.6	4.1	5.5	1.4	2.7
85歳以上	65	20.0	29.2	15.4	16.9	12.3	15.4	13.8	15.4	10.8	9.2	9.2	1.5
世帯構成別													
一人暮らし	102	20.6	20.6	20.6	20.6	13.7	11.8	16.7	14.7	9.8	7.8	7.8	3.9
高齢者夫婦のみ	39	17.9	20.5	10.3	5.1	10.3	12.8	2.6	7.7	2.6	5.1	-	2.6
65歳未満の人と同居	37	18.9	8.1	2.7	-	10.8	8.1	2.7	5.4	2.7	2.7	2.7	2.7
その他	9	22.2	22.2	-	11.1	22.2	11.1	11.1	-	-	11.1	-	-

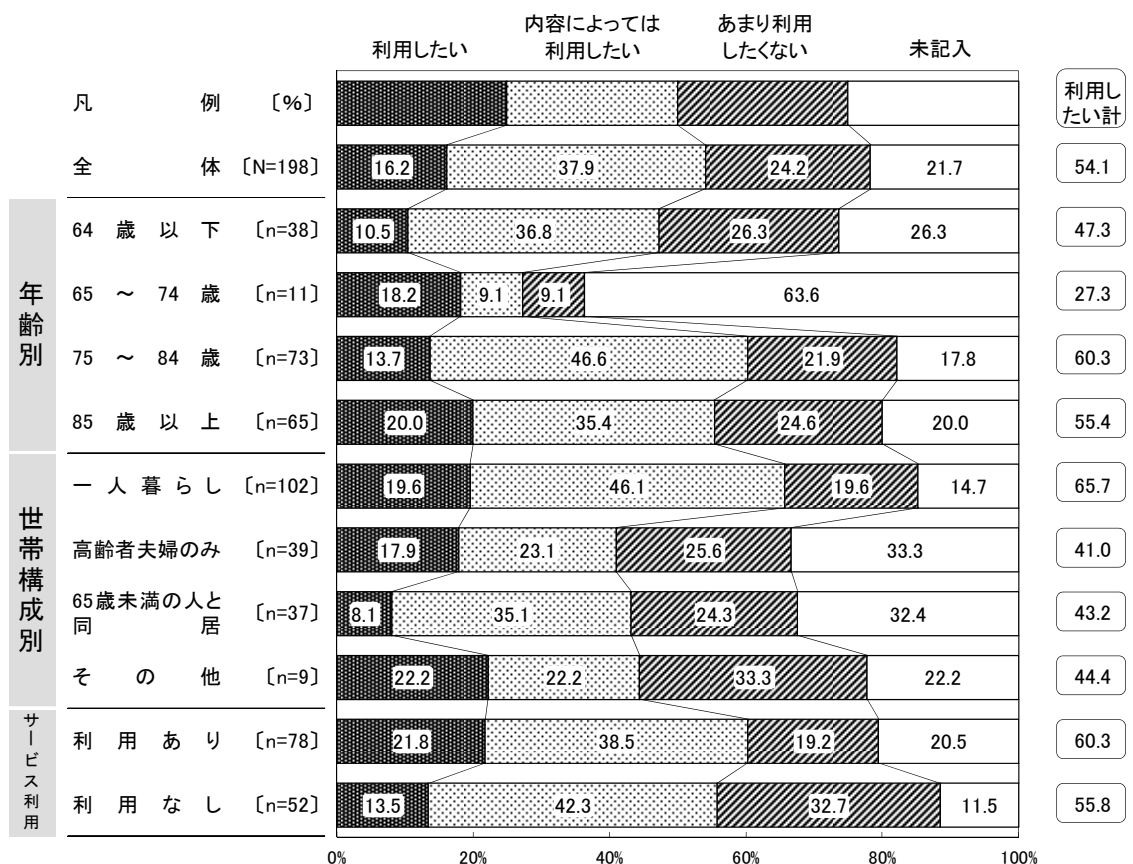
6. 地域住民の支援・サポートしてくれるサービスの利用意向

【6】日常生活のちょっとしたことを、同じ地域に住む住民が無料もしくは安価で支援・サポートしてくれるサービスがあったら利用してみたいですか。

- 全体では「内容によっては利用したい」が37.9%で最も多く、「利用したい」（16.2%）と合わせた『利用したい』人の割合は54.1%と、全体の半数を超えている。なお、「あまり利用したくない」と答えた人は24.2%となっている。
- 年齢別にみると、『利用したい』人の割合は75～84歳（60.3%）が最も多く、次いで85歳以上（55.4%）の順で、いずれも5割を超えている。なお、64歳以下は47.3%となっている。
- 世帯構成別にみると、『利用したい』人の割合は一人暮らし（65.7%）が6割を超えており、高齢者夫婦のみ世帯（41.0%）、65歳未満の人と同居世帯（43.2%）よりも上回っている。

* 『利用したい』 = 「利用したい」 + 「内容によっては利用したい」

◆地域住民の支援・サポートしてくれるサービスの利用意向◆



7. その他、生活で困っていること、知りたいこと(自由意見)

年代	世帯構成	その他困りごと 自由記載
不明	その他	・ 姉の世話をするのに体調が悪い時ＳＯＳを出す場所がない
	単身	・ 無料というのは気を使うので有料(安価)が良いと思う
	単身	・ 歩行困難なのですべてが不自由である
40歳未満	65歳未満と同居	・ 歩行はできるが数メートルで長距離は歩けない
	65歳未満と同居	・ 土、日のヘルパー、訪問看護がないので困っている。
40～65歳未満	単身	・ 病院に通うときの手段、車で送迎があれば助かる。
	単身	・ 読み書きが出来ないので意志が通じにくい。妹への負担を減らしたい
70歳代	-	・ 草取り
	単身	・ 今のところ特にないが、年を取り、体力が落ちてきているので病気になった時等の不安が大きい
	単身	・ 近所の飼い猫のフンの始末のことでトラブルがあった。それ以降あまり近所付き合いを控えている
	夫婦のみ	・ 回覧板の文字が小さい(もう少し大きい方が読みやすい)
80歳代	単身	・ 日常生活のほとんどで困っている。利用できるサービスの内容をくわしく教えて欲しい。
	単身	・ サポートを有料でサービスキップ等があれば利用したい
	単身	・ 夜へんな人が困る
	単身	・ 窓ふき等を安価で安心して頼めるところが欲しい
	単身	・ 足腰が悪くなり、病院や買い物にもタクシーを利用。玄関先まで来てもらっている。
	単身	・ 福祉施設や福祉内容について詳しく知りたい
	単身	・ ①歩行困難 ②耳が遠いので聞こえにくい。普段はベッドで寝ている。転ばないようにつかまって歩くのが精一杯。
	夫婦のみ	・ 認知症は早期に専門医に診察を受けたほうがよいが、自分で調べるのは難しいのでに市政だよりに別紙で専門医を知らせてほしい。市政だよりだと探すのが大変。又、担当の課の直通番号を広報誌等に載せて欲しい
90歳以上	65歳未満と同居	・ 褥瘡の対応をしてくれるところが近くなかった
	単身	・ 安価で支援とし、短時間での利用をのぞむ
	単身	・ 急な出事の時が困る
	単身	・ 介護保険の申請手続きをしようと思っている。
	65歳未満と同居	・ 雨戸の開け閉めなど力仕事
	その他	・ 健康面で膝がいたい、耳が遠いので、その点が不自由である